

陶芸の里コンサート

リコーダーが奏でる
春の調べ



●日時／ 1999.5.15[Sat.]

13:30—14:30

15:00—16:00

※1時間枠の同じプログラムを2回演奏します。

●会場／江別市セラミックアートセンター

1階エントランスホール

ごあいさつ

本日は、「陶芸の里コンサート—リコーダーが奏でる春の調べ—」にご来場いただき、誠にありがとうございます。このたびは、ルネサンス時代からバロック時代にかけての音楽や、なじみ深い日本の歌などを、リコーダーアンサンブルを中心にバロック時代の楽器の合奏を交えて演奏します。

さて、リコーダーのためのオリジナルな音楽作品の作曲は、バロック時代までが全盛で、古典派以降はフルートにとって替わられておりました。しかしながら、近年では古楽への関心の高まりからリコーダーが見直され、また、本日の演奏会のように、ポピュラーな音楽などを編曲して積極的に演奏することで、この楽器そのものが幅広いレパートリーを獲得してきております。そのあたりを、今回は楽器の紹介を交えてお楽しみいただきます。1時間枠の同じプログラムを2回演奏いたしますので、演奏会の前後に展示をあわせてお楽しみいただき、春のさわやかな週末のひとつきを有意義にお過ごしいただければ幸いです。

最後に、演奏会の開催にあたり、ご多忙にもかかわらず、出演をご快諾いただきました札幌リコーダー協会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

江別市セラミックアートセンター

演奏者紹介

札幌リコーダー協会

- ・1959年（昭和34年）、当時中学校の音楽教諭であった山家康男氏を中心に3人の有志で結成。
- ・当時、教育楽器として普及の途上にあたりリコーダーを、音楽的見地から研究。年を追うごとに愛好者が増え、定期演奏会の開催も回を重ねた。
- ・1992年（平成4年）、1993年（平成5年）の2年連続で、札幌アマチュア音楽祭に出演。
- ・現在は約10名の会員を擁し、札幌市内の練習場で月2回の練習を行っている。

会 長	山 秋 市	家 元 村 林 川 辺	康 稚 洋 俊 英 晋	男 代 一 哉 樹 郎
--------	-------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

石 大 野 松	川 塚 中 藤	歩 直 秀 敏	美 彦 俊 彦
------------------	------------------	------------------	------------------

プログラム

- 1 オープニング
 - ①ヨハン・シュトラウス・メドレー
 - ②ヘルマン・ネッケ「クシコス・ポスト」

- 2 楽器紹介とリコーダーで聴く日本の歌
 - ①文部省唱歌「ふるさと」
 - ②「夏の思い出」
 - ③「小さい秋見つけた」

- 3 ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ
「トリオ・ソナタ 八長調」
 - 第1楽章 *Affettuoso*
 - 第2楽章 *Alla breve*
 - 第3楽章 *Larghetto*
 - 第4楽章 *Vivace*

フラウト・トラベルソ	新 林 俊 哉
アルトリコーダー	野 中 秀 俊
ヴィオラ・ダ・ガンバ	山 家 康 男
チェンバロ	大 塚 直 彦

- 4 テイルマン・スザート「ルネサンスダンス」
 - ①アルマンド
 - ②ロンド「どうしてなの」
 - ③バヴァーヌ「百万もの悲しみ」
 - ④ロンド「昔一人の女の子がいた」

- 5 フィナーレ
 - ①ヤン・ピーテルスゾーン・スヴェーリンク「わが青春は終りぬ」
 - ②「もののけ姫」リコーダー・バージョン
 - ③「だんご3兄弟」リコーダー・バージョン

演奏 札幌リコーダー協会

※曲目は、都合により変更となる場合があります。

作曲者紹介

♪ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ（1697-1773 ドイツ）

- ・18世紀を代表するフルートの名手。
- ・1741年、フリードリヒ大王に迎えられ、宮廷音楽家として王のフルート教師や、王の主催する夕べの演奏会の監督として活躍。
- ・王の意を受けて約500曲のフルート作品を作曲し、楽器の改良も試みた。
- ・「フルート教則本」（1752）は、演奏史における古典的名著となっている。

♪ヤン・ピーテルスゾーン・スヴェーリンク（1562-1621 オランダ）

- ・アムステルダムの中教会のオルガニストとして生涯を過ごし、声楽、オルガン、クラヴィーアのための作品を残す。
- ・ルネサンスの声楽的な書法から出発し、イタリアやイギリスなどの器楽書法を同化して、独自のバロック鍵盤技法を確立。
- ・彼の門下からは多数の北ドイツの音楽家たちが輩出し、北ドイツ・オルガン学派を作り上げた。

♪ヘルマン・ネッケ（1850-1912 ドイツ）

- ・デュレンという町の音楽監督であったらしいが、詳細は全く不明。
- ・本日演奏する「クシコス・ポスト」のみが、いわゆるホーム・ミュージックとして広く知られている。
- ・クシコスとは、ハンガリー語で馬飼いのこと。実際、ハンガリー風の曲で、中間部の旋律は、リストの有名な「ハンガリー狂詩曲」にも現れるものである。

♪ティルマン・スザート（1500頃-1562頃 フランドル）

- ・ケルン出身。アントワープで1543年に楽譜出版社を興し、同時代の作曲家の作品を出版。
- ・自らもモテットやシャンソンなどを作曲し、当時流行していた旋律による単純な舞曲の編曲とともに出版した。